

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400243		
法人名	(株) ひまわり		
事業所名	ひまわりの家		
所在地	高松市香川町大野901-1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 9日	評価結果市町受理日	令和4年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員、入居者の家族様を含めて和気あいあいと、日常的に笑いが絶えないアットホームな事業所です。入居者1人1人を大切に各々の思いに本人主体のサービスを提供しています。ホームの特色であるひまわり農園が入居者の生活の質の向上(農園での作業や収穫後の作業、毎月定期的実施しているひまわり喫茶や日々のおやつ作り材料)に活用できています。又、同一敷地内に併設されている多機能ホームひまわりの利用者との交流、保育園児の訪問等もあり生活を豊かにしてくれています。※現在はコロナウイルス予防の為、園児の交流、多機能ホームひまわりとの交流も中止させて頂いています。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

幹線道路わきのスーパーマーケットの近く、民家風の建物が事業所で、大きな木彫のヒマワリが目印となっている。事業所の本体は医療法人であり、地域住民の健康をサポートしている。事業所は理念が示すように地域支援を目的に、コミュニティ活動や老人の居場所づくりにも参加して活動を支援している。住民からも支持を受けており、ボランティア活動や高齢者就労の受け入れなど、人の輪が広がりを続けている。職員は皆で話し合う風土があり、長く勤められている方も多し。利用者は地元の方が中心で、面会や知人の訪問も多い。家庭的な温かい雰囲気の中で皆さん安心して生活を送られている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和 3年 11月 25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員が理解した上で独自理念を作っており、毎日朝礼でひまわりの理念を復唱している。又、理念に添った支援が実践できるように接遇等の内部研修を定期的に行っている	事業所では法人の理念に基づき、ひまわりの理念を作り毎日朝礼にて全員で唱和されている。ひまわりの理念は管理者や職員で共有され、理念に沿った支援の実践が図られている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、地域の保育園児が慰問交流していたが、感染症予防の為、今は見合わせている。ひまわり農園で収穫したものを近所の方に配り交流を図っている	地元の自治会への加入や、コミュニティセンターに活動にも参加されている。また、事業所の一部を開放した高齢者の居場所づくりや慰問、ボランティア活動等の受け入れを通じて、利用者と地元民との交流が深く長く続けられている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のコミュニティセンターに半年に1回程度訪問し、地域の高齢者について困り事などを積極的に情報を収集し協力できることで対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方(2名)へ、活動報告を書面にて職員が訪問(2か月に1回)し渡している。地域の現状、取り組み高松市からのお知らせを聞き取り、議事録に残している。又、高松市へも活動報告し、市からの情報を聞いている	コロナ禍にて、運営推進会議が書面にて実施されており、活動報告等なされている。地域の現状把握や、行政との情報交換の場もなっている	事業所は地元の人たちがよく立ち寄れる場所や環境にあり、長年の交流により協力体制が出来ている。その強みを活かし、地域の力を更に運営推進会議に取り入れるような仕組みの発展に期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者と交流があり、相談に乗ってもらったり助言を頂いたりして利用者のニーズに応えられるよう連携をとっている	運営推進会議には介護保険課や包括支援センターの職員が参加して、伝達事項や注意事項等の情報を伝え、事業所は現状、取り組みを伝え、信頼関係を築いている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマとした勉強会を行っており「高齢者の意思決定を奪うもの」という認識を深め、高齢者の身体や精神にどのような影響があるのか理解に努めている。玄関、出入口は全施錠しておらず出入りができるようにしている。3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し内部研修で職員に伝えている	テーマにより担当職員が自主的に勉強をして発表、他の職員はレポートを提出するなど学びあう関係が構築されている。グループホームエリアは自由に出入りができ施錠はされていない	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修や教育を実施し、法制度、介護技術、認知への理解を深め「あってはならないもの」という認識を徹底すると同時に職員のストレス対策なども積極的に行っている。虐待防止委員会を設立し、身体拘束廃止委員会と協働して行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に積極的に参加したり講師を迎えて研修会を行ったりすることでこれから先に利用される方へ備えて対応できるように体制を整えるよう努めている。リモート研修も参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して生活して頂けるよう入居時に契約書や重要事項について家族様と一緒に目を通し読み上げて説明を行っている。疑問点や質問には、その都度答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族様には日頃から親しみやすく声をかけやすい雰囲気作りを心がけ、要望や意見をその都度出してもらっている。出された要望や意見には速やかに対応し入居者の満足が得られるよう努力している	玄関には意見箱の設置、日頃から本人や家族等に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりがなされている。出された意見や要望は運営者や管理者に報告し、速やかに検討されている。利用者・家族等により良い方法が検討されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会や年に数回のアンケートにて吸い上げより良い運営に活かしている。また随時意見も言いやすいような関係作りも出来ている	職員会やアンケート調査で職員の意見が収集されている。職員は長く勤務されている方が多く、随時話し合う機会もあり、運営者・管理者も意見を受け入れる体制がある	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆が協力し合う関係が構築されており長年の勤務継続につながっている。子育て中の職員には特に配慮を行い仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は情報を職員に伝え参加を働きかけ個々のステップアップや施設のレベルアップにつなげている。参加者には研修報告書や施設内での研修報告を義務付けている。また資格取得支援も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に持ち情報交換を行い、良い点を取り入れて、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で本人の思いや不安要因を傾聴し受け止め、不安や戸惑いを極力感じることなく生活を送れるよう支援することでスムーズに信頼関係が築ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている思いを受け止め、誠心誠意出来る限りのサポートをさせて頂くことや、ホームでの生活を送る上で、どんなことでも相談させて頂くことを伝えることにより信頼関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様が、一番必要としている支援を理解し、不安や戸惑いなくホーム生活がスタートできるように必要な支援が提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合い生活するという視点で、利用者個々の得意分野を見極め、力が発揮できるようサポートしながら暮らしの知恵や料理などの学びを得ることで、利用者の自信や生きがいにつながり良好な信頼関係が築けている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に参加を働きかけ、楽しい時間を共有することで双方の心の安定が図れている。面会が少ない家族様にはひまわり便りや写真を送付し近況の報告を同封したり、電話を入れて関係を築いている。体調の変化はその都度経過報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の関係で以前のように面会は難しいが、電話やオンラインで体制を整え対応している	感染対策のために、自由に事業所内を利用できないが、決められた場所での面会は出来ている。通信手段として電話やオンラインの利用も可能となっている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や関係性を見極め、声掛けや会話の取り持ちに気を配り、トラブル無く気持ちよく過ごせるように席にも配慮している。トラブルの兆しを察知した時はさり気なく話題を変えるなど工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに行き(コロナ禍の為、お断りされる事が多い)様子を伺っている。又家族様からの相談も快く受け、助言や支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人一人の思いや意向、希望などの把握に努めている。意向が伝えられない方には会話の中や表情から探り、相手の立場に立ち自分だったらどうして欲しいかを常に考えた支援を皆で検討し実践している	一人ひとりの思い・意向を把握するために日々の行動・表情・会話などから汲み取れるよう努めている。家族からも聴き取り、本人の立場になって検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴をご本人や家族様から聞き取り、その人らしく生活が送れるよう把握に努めている。「私の暮らし情報」をスタッフで共有しながら要約をコミュニケーションや生活支援に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝・夕の申し送りで日々の入居者の方の情報共有を行っている。心身の状態や変化はその都度話し合い現状の把握をし、柔軟に対応できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様の意向を良く聞いた上で、NSやPTなど多職種を交えた定期的な話し合いを持ち個々に合った介護計画作成に努めている。体調の変化に関わらず3か月毎に作成している	利用者の介護計画は原則3ヶ月ごとに見直されている。利用者や家族等の意向を聞き、多職種の意見を交えた話し合いを定期的に持ち、現状に合った計画づくりがなされている。状況の変化に応じて計画も見直されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目でその日の生活の流れや体調の把握ができるケース記録を個々に記入している。内容を共有することでよりよいケアや計画の見直しにも役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化時には24時間協力病院の支援体制ができており迅速な対応ができています。併設されている多機能ホームのレクに参加させてもらうなど多機能性を活かした支援が出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力などは限られているが、より良い暮らしができるように支援している。防災訓練も参加している。近隣の保育園との交流は見合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療関係の説明を十分に 行っており、医療機関での診察や往診が適 切に行われている。受診時の送迎も行って いる	入居時にかかりつけ医と協力医療機関の説 明を行い、利用者や家族に理解を得ている。 事業所では医療機関との連携があり、診察 や往診・看護師の巡回訪問などのサービス の利用が出来ている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	介護職員と看護職員との連携が取れており、体調の変化が早 い段階で看護職員に伝えられ結果早期発見につながっている。 協力医療機関への報告は看護職員を通じて毎日FAXや電話で 心身の状況の報告ができています。医療機関から定期的に看護 師の訪問があり、状態把握が適切にされており、必要時には適 切に受診が出来るように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	ご本人に関する情報やケアについての添書 を相手の医療機関に送付し、安心安全な治 療が受けられる関係作りを行っている。又、 定期的に連絡をとり状態の把握を行い、早 期に退院できるように医師との連携に努め ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所のできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる	重度化した場合や終末期の在り方につい ては入居時に重要事項説明書などの中で説 明している。又医療機関や施設責任者、家 族様を交えて話し合いの機会を設け可能な 限り希望に沿えるよう体制を整えており方 針を共有している	重度化や終末期の看取りについて、利用者 や家族等に説明し、話し合いを行っている。 重度化に伴い、医療機関や家族を交えて事 業所のできることも説明し、希望に添えるよう 支援体制を整えて取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対策マニユ アルを整備している。冷静な判断のもと、確実 で適切な行動がとれるように定期的な話し 合いや勉強会、訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。防災管理者の講習を受 けた職員が中心になって訓練を行い地域住民や他の 事業者の参加もコロナ禍前まではして頂いている。飲 料水、非常食、燃料、備品も備蓄しており消費期限の チェックも行っている。生活水は井戸水が使用可能であ る	防火管理者を中心に企画し、近隣住民や他 の事業所の参加により、年2回訓練が実施さ れている。飲料水や食料品等も備蓄され、多 様な災害に合わせた避難経路についても検 討されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格尊重やプライバシーを損なわないような対応を徹底するよう心がけている。又職員同士もお互い注意声掛け合っている。お部屋に入る時はノックした上で了解を得てから入室し、排泄場面では自尊心を傷つけないような言葉かけや他者の目に触れることの無いように配慮している	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けた処遇となるよう、職員は互いに注意しあっている。入浴や排泄等も他人の目に触れないよう配慮なされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が決定できるよう選択肢や必要な情報の掲示、声掛けをしている。又寄り添い掲揚し、思いや希望を引き出す声掛け、ご自身の思いを伝えやすい雰囲気づくりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず第一にご本人の生活ペースを尊重した関わりを心掛けている。自宅で過ごしているようにリラックスして生活して頂けるような環境作りや馴染みの関係作りに努めている。又会話を通し何に興味があるのかしっかり把握に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があればご本人の行きつけの美容院に行けるよう支援していたが今は見合わせている。ホームに来てくれる理美容に希望の日を伝え利用している方が多い		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループ内の事業所の厨房から配食されている。希望の献立や要望があると厨房に伝え意見を聞いてもらっている。又体調を考慮しながら無理のない範囲で食器洗いなど一緒に行っている	朝食・ご飯・お茶は各ユニットで作り、昼夕食のおかずは別事業所の厨房で作られている。盛り付けや配膳は利用者も参加されている。利用者希望の献立があれば厨房に伝え変更もでき、時には手作り弁当やバーベキューなども楽しまれている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を栄養士が立てており、食事量は毎食チェック表に記入し、水分摂取量とともに把握に努めている。入居者の体調や状態に応じてお茶ゼリーやトロミをつけ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔保持に努めている。ご入居者の口腔状態にあったケアを有資格者職員の指導のもと行っている。可能な限りご自身で行ってもらい不十分なところは職員が仕上げを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄状況が異なるため、それぞれに見合ったケアを行っている。トイレ誘導や声掛けも定期的に行っている。看護師の指示のもと、段階をふんでトイレでの排泄が行えるよう取り組んでいる	生活リハビリを取り入れ、下肢筋力を維持強化しトイレでの排泄に活かしている。トイレ誘導には個々の排泄状況を把握し、声を掛けたり誘導して失敗は減っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や手作りのおやつ等の提供をしている。水分量や運動、マッサージにも取り組んでいる。自主排便が困難な場合は看護師に伝え適切な対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴は週2回、手指足浴も取り入れている。一般浴も週に3回、体調や本人の入りたいタイミングを見て行えている。入浴を拒否される場合は時間を空けて様子を見ながら再度声掛けの工夫をして促している	利用者の心身の状態に合わせて、特浴と一般浴が選択できる。特浴は週2回に手指浴もされている。一般浴は週3回、体調をタイミングを見計らって誘導がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを家族様より聞き参考にしている。ご本人の希望を最優先し、日中横になったり休息できる体制を整えている。お部屋に行かずとも座ったり横になったり出来るソファや和室に誘導することもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取組みが出来ている。またその都度分包に印字されている名前を復唱し確実な服薬に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等を把握しそれを活かせるようホームの生活の中で好きな事、得意なこと役割を持ってもらい編み物であったり、家事の手伝いをしてもらい感謝を伝え自信回復や喜びにつながっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や買い物に出掛けたり、季節の行事への参加や外食等は見合わせているが、外部と接触の少ない場所へのドライブ等状況を勘案し出かけ、気分転換を図っている	天気の良い日には日光浴を兼ねて近隣を散歩している。コロナ禍では面会もできない分、人混みを避け自然豊かな場所を探しドライブし、庭園でお茶を飲んだりしている。外出は気分転換になっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方は家族様の理解や希望もあり本人に任せている。家族様よりホームで預かってほしいとの希望があれば出納帳を用いて記入し次回の金銭を預かる時出納帳を見せサインを頂きレシートを渡し領収としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキに写真を取り込み印刷までは手伝い言葉はご本人に書いてもらえるよ支援している。自ら電話をしたいとの要望は少ないが、あった場合はご本人の了解のもと代行し要望を家族様に伝えている。又オンラインでの面会のサポートも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模多機能ホームとの間には中庭があり、季節に応じた変化を楽しみながら散歩ができる。四季折々にホームで育てた花を飾ったり、ホールや廊下にも入居者様と一緒に作った季節を感じられる装飾がされている	グループホーム内外は自由に出入りができ、所々にベンチやイスが置かれ休憩もできる。中庭の水泉は井戸水で鯉が泳ぎ、通路の両側には花や木々が植えられている。内部はクリスマスの装飾やモールなど季節の飾りがなされ、利用者の笑顔がより一層明るく輝いている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要な時は和室や居室、中庭を利用している。ゆっくり休めるようにソファを設置しクッションを置いている。玄関先にソファを、中庭にベンチを置き外気を浴びながらくつろげるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の安心できる居場所作りとして、家族様に協力を依頼し、お家で使っていた馴染みの家具や飾り物を持ち込み居室の再現を協力していただいている	入り口には家族の同意を得て、利用者の顔写真とお名前が表札代わりに貼られており、居室には洗面化粧台・ベッド・クローゼット・テーブルとイスなど備品がある。それぞれ馴染みの物を持ち込まれ、満面の笑顔の写真を沢山壁に貼っている部屋などもみられる	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所は分かりやすく大きな字の表示があり、戸惑うことなく行けるように工夫している。居室入口には家族様の同意を得て、名前と顔写真を張り出している。廊下や浴室、トイレには手すりが付いており、安全に移動が出来るように不要なものは置かず環境整備に努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解した上で独自理念を作り、理念に沿った支援が常に実践できるように毎日朝礼で復唱している。また理念について職員や訪問者が分かりやすく提示している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、利用者とボランティアの方々が一緒になって作りあげた作品を、毎年10月に地域のお祭り行事の際に展示する予定だったが、コロナ禍の為、中止する
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの方々との交流の中で、地域高齢者が生活される上で困りごとがないか、コロナ禍の為、配慮しつつ情報を収集し協力できることで対応している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方(2名)へ、活動報告を書面にて職員が訪問(2か月に1回)し渡している。地域の現状、取り組み高松市からのお知らせを聞き取り、議事録に残している。又、高松市へも活動報告し、市からの情報を聞いている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者との交流があり、相談に乗ってもらったり助言を頂いたりして利用者のニーズに応えられるよう連携をとっている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマとした勉強会を行っており「高齢者の意思決定を奪うもの」という認識を深め、高齢者の身体や精神にどのような影響があるのか理解に努めている。玄関、出入口は全施錠しておらず出入りができるようにしている。3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員に勉強会を行っている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修や教育を実施し、法制度、介護技術、認知への理解を深め「あってはならないもの」という認識を徹底すると同時に職員のストレス対策なども積極的に行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会にリモートで積極的に参加し、これから先に利用される方へ備えて対応できるように体制を整えるよう努めている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して生活して頂けるよう入居時に契約書や重要事項について家族様と一緒に目を通し読み上げて説明を行っている。疑問点や質問には、その都度答えるようにしている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族様には日頃から親しみやすく声をかけやすい雰囲気作りを心がけ、要望や意見をその都度出してもらっている。出された要望や意見には速やかに対応し入居者の満足が得られるよう努力している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会や年に数回のアンケートにて吸い上げより良い運営に活かしている。また随時意見も言いやすいような関係作りも出来ている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆が協力し合う関係が構築されており長年の勤務継続につながっている。子育て中の職員には特に配慮を行い仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組んでいる
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は情報を職員に伝え参加を働きかけ個々のステップアップや施設のレベルアップにつなげている。参加者には研修報告書や施設内での研修報告を義務付けている。また資格取得支援も行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とはリモートを活用し、積極的な情報交換を行い、良い点を取り入れて、サービスの質の向上に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で本人の思いや不安要因を傾聴し受け止め、不安や戸惑いを極力感じることなく生活を送れるよう支援することでスムーズに信頼関係が築ける様に努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている思いを受け止め、誠心誠意出来る限りのサポートをさせて頂くことや、ホームでの生活を送る上で、どんなことでも相談させて頂くことを伝えることにより信頼関係が築けるようにしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様が、一番必要としている支援を理解し、不安や戸惑いなくホーム生活が始まるために必要な支援が提供できるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合い生活するという視点で、利用者個々の得意分野を見極め、力が発揮できるようサポートしながら暮らしの知恵や料理などの学びを得ることで、利用者の自信や生きがいにつながり良好な信頼関係が築けている
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に参加を働きかけ、楽しい時間を共有することで双方の心の安定が図れている。面会が少ない家族様にはひまわり便りを送付し近況の報告を同封したり、電話を入れて関係を築いている。体調の変化はその都度経過報告している
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の関係で以前のように面会は難しいが、電話やオンラインで体制を整え対応している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や関係性を見極め、声掛けや会話の取り持ちに気を配り、トラブル無く気持ちよく過ごせるように席にも配慮している。トラブルの兆しを察知した時はさり気なく話題を変えるなど工夫している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに行き様子を伺っている。又家族様からの相談も快く受け、助言や支援を心がけている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人一人の思いや意向、希望などの把握に努めている。意向の出でこない方には会話の中や表情から探り、意思が伝えられない方には相手の立場に立ち自分だったらどうして欲しいかを常に考えた支援を皆で検討し実践している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴をご本人や家族様から聞き取り、その人らしく生活が送れるよう把握に努めている。「私のくらし情報」の要約をコミュニケーションや生活支援に役立てている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝・夕の申し送りで日々の情報共有を行っている。心身の状態や変化はその都度話し合い柔軟に対応できている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様の意向を良く聞いた上で多職種を交えた定期的な話し合いを持ち個々に合った介護計画作成に努めている。体調の変化に関わらず3ヵ月毎に作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目でその日の生活の流れや体調の把握ができるケース記録を個々に記入している。内容を共有することでよりよいケアや計画の見直しにも役立てている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化時には24時間協力病院の支援体制ができており迅速な対応ができています。併設されている多機能ホームのレクに参加させてもらうなど多機能性を活かした支援が出来る

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力などは限られているが、より良い暮らしができるように支援している。防災訓練も参加している。近隣の保育園との交流はコロナ禍のため見合わせている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療関係の説明を十分に行っており、医療機関での診察や往診が適切に行われている。受診時の送迎も行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員との連携が取れており、体調の変化が早い段階で看護職員に伝えられ結果早期発見につながっている。協力医療機関への報告は看護職員を通じて毎日FAXで心身の状況の報告ができています。医療機関から定期的に看護師の訪問があり、状態把握が適切にされており、必要時には適切に受診が出来るように支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人に関する情報やケアについての添書を相手の医療機関に送付し、安心安全な治療が受けられる関係作りを行っている。又、定期的に連絡をとり状態の把握を行い、早期に退院できるように医師との連携に努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については入居時に重要事項説明書などの中で説明している。又医療機関や施設責任者、家族様を交えて話し合いの機会を設け可能な限り希望に沿えるよう体制を整えており方針を共有している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対策マニュアルを整備している。冷静な判断のもと、確実に適切な行動がとれるように定期的な話し合いや訓練を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。防災管理者の講習を受けた職員が中心になって訓練を行い地域住民や他の事業者の協力も得られている。飲料水、非常食、燃料、備品も備蓄しており消費期限のチェックも行っている。生活水は井戸水が使用可能である

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように言葉かけには配慮し、本人の誇りにも十分配慮した対応を心掛けるように周知徹底している(入室時のノック、排泄場面での配慮)
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者も希望を聞いているが、なかなか食べ物を思いつかない人には、おかずをいろいろと提示して選んでもいただき希望を言えるように働きかけている。本人がいろいろと発想し自分の意見を言えるように助言している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩が日課」のご入居の希望を受け止め家族さまとも十分に話し合った上で年齢や体力安全面なども考慮しホームの中庭は自由に散歩できるようにしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関してはホームに来て下さる美容師を利用している。髭剃りや爪切りなどは職員が積極的に声かけし自分でできる人は自分でして頂き、出来ない人は職員が行っている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚や肉の嫌いな人や温かい物が好きな人など入居者一人ひとりの好みや食べ易い物をその人に合った形態で提供している。片づけも一緒にする事を楽しみにしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っておりバランスが取れた食事内容が提供できている。体調などにより全量摂取出来ない方は無理をしないよう声かけしている。いつでも水分補給できるように毎日新しいお茶を用意している。居室でも飲める様にペットボトルにお茶を入れ夜間の水分補給にも対処している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声かけにて促し、本人の了解を得た上できちんと磨けているかチェックしている。入れ歯の人は一部介助、全介助を行い週2回ポリドントで洗浄し清潔を保っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主的にトイレ使用される方が多く、トイレは3つの為、排泄時間が重なる時もあり、空トイレへの声かけ誘導を行っている。訴えない方には一人一人の尿量・回数をみて時間誘導や挙動を察知して誘導を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、運動や散歩を促がし腹部マッサージも取り入れている。繊維質の多い食物や乳製品を提供し予防に努めている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	普通浴は週3回行っており、希望が出た可能な時間帯であれば対応している。又、一人ずつゆっくり入浴が楽しめるようにしている。特浴は週に2回で他に足浴も行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夜間は十分睡眠が取れている。年齢、体調、希望を考慮し日中少し横になったり、ソファで横になってもらう体制を整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表はカルテ内にファイルしておりスタッフが薬の働きや副作用などが把握できるようになっている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味や生活歴を把握し、散歩や毎日の体操など活動的に過ごしている。お手伝いも積極的にしてくれている。感謝の言葉を伝える事で自信につながっている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩く事を日課にされている方もおり、戸外への散歩はスタッフが付き添っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理している方はいない。家族様のご理解によりホームで少額預かり必要なものがあつた時職員と一緒に買い物に出掛け、預り金より本人が支払うように支援している。出納帳記入とレシートで家族様には確認して頂いている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状は本人に書いて頂ける様に支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに作品作りをし展示している。皆アットホームなムードの中、楽しみながら作品を作り、それを見て会話が弾みコミュニケーションも取れている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階にソファを置きリラックスできるように工夫している。気の合った者同士がくつろげるよう2階にもテーブルセットを用意している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの家具を置き、安心できる空間にしている。本人、家族様と相談しながら本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな字でトイレ表示し分かりやすくしている。家族様の同意を得て名前と写真を居室入り口に表示している。又、移動周辺と居室には危険がないよう不要なものは取り除き配慮している

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員が理解した上で独自理念を作っている。理念に添った支援が実践できるように内部研修など、折にふれ啓蒙してその理念を共有し、理念を意識した実践を心掛けている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加し、地域の保育園児が慰問交流、散歩や買い物など馴染みの方と会話を交わしての外出、文化祭に参加し入居者の作品をバザーに出したりしていたが、コロナ禍のため全て中止となっている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの方々との交流の中で、地域高齢者が生活される上で困りごとがないか、コロナ禍の為、配慮しつつ情報を収集し協力できることで対応している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かす	地域住民に対して、活動報告を書面にて職員が訪問し渡している。地域の現状、取り組み高松市からのお知らせを聞き取り、議事録に残している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者との交流があり、相談に乗ってもらったり助言を頂いたりして利用者のニーズに応えられるよう連携をとっている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマとした勉強会を行っており「高齢者の意思決定を奪うもの」という認識を深め、高齢者の身体や精神にどのような影響があるのか理解に努めている。玄関、出入口は全施錠しておらず出入りができるようにしている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修や教育を実施し、法制度、介護技術、認知への理解を深め「あってはならないもの」という認識を徹底すると同時に職員のストレス対策なども積極的に行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に積極的に参加している。コロナ禍のため、リモートでの研修にも積極的に参加している。これから先に利用される方へ備えて対応できるように体制を整えるよう努めている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して生活して頂けるよう入居時に契約書や重要事項について家族様と一緒に目を通し読み上げて説明を行っている。疑問点や質問には、その都度答えるようにしている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族様には日頃から親しみやすく声をかけやすい雰囲気作りを心がけ、要望や意見をその都度出してもらっている。出された要望や意見には速やかに対応し入居者の満足が得られるよう努力している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会や年に数回のアンケートにて吸い上げより良い運営に活かしている。また随時意見も言いやすいような関係作りも出来ている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆が協力し合う関係が構築されており長年の勤務継続につながっている。子育て中の職員には特に配慮を行い仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組んでいる
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は情報を職員に伝え参加を働きかけ個々のステップアップや施設のレベルアップにつなげている。参加者には研修報告書や施設内での研修報告を義務付けている。また資格取得支援も行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に持ち情報交換を行い、良い点を取り入れて、サービスの質の向上に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネージャーや病院関係者から情報を収集した上で本人の思いや不安要因を傾聴し受け止め、不安や戸惑いを極力感じることなく生活を送れるよう支援することでスムーズに信頼関係が築ける様に努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるかどうか不安に思っている思いを受け止め、誠心誠意出来る限りのサポートをさせて頂くことや、ホームでの生活を送る上で、どんなことでも相談させて頂くことを伝えることにより信頼関係が築けるようにしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様が、一番必要としている支援を理解し、不安や戸惑いなくホーム生活が始まるために必要な支援が提供できるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合い生活するという視点で、利用者個々の得意分野を見極め、力が発揮できるようサポートしながら暮らしの知恵や料理などの学びを得ることで、利用者の自信や生きがいにつながり良好な信頼関係が築けている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のためホーム行事が中止になったり縮小されているが、参加を働きかけ、楽しい時間を共有することで双方の心の安定が図れている。リモート面会や窓越しでの面会になっているため、家族様にはひまわり便りや写真、お手紙を送付し近況の報告を同封したり、電話を入れて関係を築いている。体調の変化はその都度経過報告している
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の関係で以前のように面会は難しいが、電話やリモート、窓越しでの面会等で体制を整え対応している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や関係性を見極め、声掛けや会話の取り持ちに気を配り、トラブル無く気持ちよく過ごせるように席にも配慮している。トラブルの兆しを察知した時はさり気なく話題を変えるなど工夫している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに行き(コロナ禍のため断られる事が多くなっている)様子を伺っている。又家族様からの相談も快く受け、助言や支援を心がけている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人一人の思いや意向、希望などの把握に努めている。意向の出でこない方には会話の中や表情から探り、意思が伝えられない方には相手の立場に立ち自分だったらどうして欲しいかを常に考えた支援を皆で検討し実践している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴をご本人や家族様から聞き取り、その人らしく生活が送れるよう把握に努めている。「私のくらし情報」をスタッフで共有しながら要約をコミュニケーションや生活支援に役立てている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝・夕の申し送りで情報の共有を行っている。心身の状態や変化はその都度話し合い現状の把握をし、柔軟に対応できている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様の意向を良く聞いた上で多職種を交えた定期的な話し合いを持ち個々に合った介護計画作成に努めている。体調の変化に関わらず3ヵ月毎に作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目でその日の生活の流れや体調の把握ができるケース記録を個々に記入している。内容を共有することでよりよいケアや計画の見直しにも役立てている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化時には24時間協力病院の支援体制ができており迅速な対応ができています。併設されている多機能ホームのレクに参加させてもらうなど多機能性を活かした支援が出来る

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力などは限られているが、より良い暮らしができるように支援している。防災訓練も参加している。コロナ禍のため、近隣の保育園との交流は見合わせているが、お互いに贈り物は届け合っている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療関係の説明を十分に行っており、医療機関での診察や往診が適切に行われている。受診時の送迎も行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員との連携が取れており、体調の変化が早い段階で看護職員に伝えられ結果早期発見につながっている。協力医療機関への報告は看護職員を通じて毎日FAXや電話で心身の状況の報告ができています。医療機関から定期的に看護師の訪問があり、状態把握が適切にされており、必要時には適切に受診が出来るように支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人に関する情報やケアについての添書を相手の医療機関に送付し、安心安全な治療が受けられる関係作りを行っている。又、定期的に連絡をとり状態の把握を行い、早期に退院できるように医師との連携に努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については入居時に重要事項説明書などの中で説明している。又医療機関や施設責任者、家族様を交えて話し合いの機会を設け可能な限り希望に沿えるよう体制を整えており方針を共有している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対策マニュアルを整備している。冷静な判断のもと、確実に適切な行動がとれるように定期的な話し合いや勉強会、訓練を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。防災管理者の講習を受けた職員が中心になって訓練を行っている。、コロナ禍のため地域住民や他の事業者の協力は中止している。飲料水、非常食、燃料、備品も備蓄しており消費期限のチェックも行っている。生活水は井戸水が使用可能である

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格尊重やプライバシーを損なわないような対応を徹底するよう心がけている。又職員同士もお互い注意し声掛け合っている。お部屋に入る時はノックした上で了解を得てから入室し、排泄場面では自尊心を傷つけないような言葉かけや他者の目に触れることの無いように配慮している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話から思いを知るようにし、思いを伝えやすいような雰囲気作りを心掛け声掛けの工夫をしている。食事については嫌い物や、食事形態については希望が出た時に可能な限り要望に応えている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がどのようにして日々の生活を送りたいのか意向確認を行い本人のペースで過ごせるように希望に添った支援を行っている。体調や本人の希望で食事時間の変更はよくある。自宅で過ごしているようにリラックスして生活して頂けるような環境作りや馴染みの関係作りに努めている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関してはホームに来てくれるボランティア的な美容師さんをお願いしている。開業当初から来てくれているので馴染みの関係が出来ており、この日を楽しみにしておられる方もいる。日々の化粧も本人のレベルに応じてサポートしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループ内の事業所厨房から配食されてきているが、朝食はホーム台所で作るため、食事に対しての意見や要望を聞く事ができている。厨房にも伝え意見を聞いて貰っている。下膳の手伝いに参加したり時々おやつもプレート等を使って見学する人、手伝う人と一緒に楽しんでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っておりバランスが取れた食事内容が提供できている。体調などにより全量摂取出来ない方は無理をしないよう声かけしている。いつでも水分補給できるようにテーブルにお茶を用意している。居室でも飲める様にペットボトルにお茶を入れ夜間の水分補給にも対応している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアと毎食後食清潔保持と誤嚥性肺炎防止のため口の中をチェックしている。入居者個々の口腔状態を把握した歯科衛生士の指導のもと可能な限りは自分でやっている。十分とは言えない場合は必ず職員が仕上げをしている。義歯の方にはポリデント液につけている。うがいが出来にくい方はスポンジブラシを毎回使っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけている(チェック、トイレ誘導時間等)訴え時以外は排泄間隔を考慮して声かけ、トイレ誘導を行っている。基本的にトイレでの排泄は自主性を尊重している。回数が多い方についても見守り重視で気になる時のみさり気なく関わり説明の上交換している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を提供しており野菜等残さず食べるように促している。便秘気味の方は水分を多めに摂取してもらい予防に努めている。食事以外にも午前、午後水分摂取の時間を設けている。腹部マッサージや散歩・運動も働きかけている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	普通浴は週3回行っている。時間帯、回数は本人の意思を尊重し可能な限り要望に応じていける体制にしている。特殊浴は週2回でその方については他に手指足浴も取り入れている。入浴拒否時は時間差で声かけを工夫し誘っている。入浴の好きな方は長湯傾向にあるので十分気をつけるようにしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夜間は十分睡眠が取れている。年齢、体調、を考慮し本人の希望に沿い日中少し横になったり、ソファで横になってもらう体制を整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の一覧はカルテの内にファイルしており、スタッフが確認できるようになっている。これにより服薬の目的や副作用についても把握できるようにしている。またその都度分包に印字されている名前を復唱し確実な服薬に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日体操をしたり、外気浴や散歩を日課とし活動的な日々を送っている。感染予防のため消毒作業等のお手伝いも積極的に行ってくれている。その都度感謝の言葉を伝える事で自信につながっている。趣味や職歴を生かして繻い物や編み物をするなど力を活かした役割参加を促している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため施設外にはでられず、中庭や他棟へ散歩に出掛けたり、季節の行事やひまわり喫茶に参加している。外食等は見合わせているが、外部と接触の少ない場所へのドライブ等状況を勘案し出かけ、気分転換を図っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方は家族様の理解や希望もあり本人に任せている。家族様よりホームで預かってほしいとの希望があれば出納帳を用いて記入し次回の金銭を預かる時出納帳を見せサインを頂きレシートを渡し領収としている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家族様からの電話には直接お話が出来るように支援している。年賀状や手紙の返事等、職員と協力し書いてもらっている。家族様から荷物が届いた時には必ず折り返しの電話をいれている。又オンラインでの面会のサポートも行っている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模多機能ホームとの間の中庭や、3号棟の前や横にも庭があり、季節の花やなどに水やりをして育て、その花を飾ったりしている。季節に応じた変化を楽しみながら散歩ができる。毎月、季節に応じた塗り絵など作品を入居者と一緒に作り展示している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、くつろげるソファを置いてある。サンデッキもある事でゆったり過ごせている。気が合う、合わない入居者の関係性に配慮した席や居場所を工夫して確保に努めている等状況に応じた対応をしている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の安心できる居場所として、家族様にご理解していただけるよう説明し、お家で使っていた馴染の家具や飾り物を持ち込み居室の再現に協力していただいている。畳の上で寝転ぶ習慣がある方についてはベッドに加えて床に畳を置いている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族様の同意を得て、居室入口には名前と顔写真を張り出している。トイレは戸惑うことなく行けるように表示しており安全に移動ができるよう手すりをつけ、不要なものは放置せず危険が無いように配慮している。写真拒否の入居者様もいるので本人好みのイラストや花の写真を入れている